

## 【資料3-1】

### 「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の 重要業績評価指標（KPI）の達成状況等について

#### 1. 「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは

国の長期ビジョンや総合戦略を勘案しつつ、角田市における人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、7か年（平成27年度～令和3年度）の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版の総合戦略である。（以下「角田市総合戦略」という。）



国の交付金を受け、市民や高校生へのアンケート調査を実施し、「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において検討を重ね、平成28年1月に策定し、その後、次期長期総合計画と次期総合戦略を一体的に策定するため、令和2年3月に変更（計画期間の2年延長）を行った。

なお、令和4年度以降の角田市総合戦略については、角田市第6次長期総合計画と一体的に策定していることから、その評価及び進行管理については、角田市長期総合計画等推進委員会において一体的に行うこととした。

#### 2. 政策目標の設定と検証

基本目標に係る数値目標	4項目
具体的な施策に係る重要業績評価指標（KPI）	35項目

「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、角田市における7年後の基本目標とこれに係る数値目標を設定した。

また、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向と具体的な施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI※1））を設定している。

なお、政策の進捗状況について KPI で検証し、改善する仕組み（PDCA サイクル※2）を確立するとともに、外部有識者会議等を含む検証機関として「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置し、基本目標に係る数値目標や具体的な施策に係る KPI の達成度を検証するものとしている。

※1 KPI・・・Key Performance Indicator の略（達成すべき成果目標）。

※2 PDCA サイクル・・・Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

### 3. 基本目標に係る数値目標の達成状況

#### 基本目標① 内発的産業の振興による安定した雇用の創出

数値目標	策定時	目標（令和3年度）
従業者数（人）	14,409（平成26年）	15,267

#### 【数値目標①：従業者数（経済センサス）】

令和3年度「経済センサス（活動調査）」の実績値は、全産業で13,750人となり、目標値の15,267人には届かず、平成26年の14,409人と比べても659人の減少という結果となった。

将来、人口減少が進行し、まちの規模が縮小していく中、持続可能なまちづくりを実現するためには、地域の稼ぐ力を高め、魅力的なしごと・雇用機会を創出していくことが重要である。

今後は、角田市第6次長期総合計画に基づき、地域資源を活かした付加価値の高い地域産業の育成・支援を行うとともに、既存企業への支援や企業誘致の促進等により、質の高い雇用の創出を図っていく。

## 基本目標② 地域資源を活かした移住・定住の推進

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
転入者数(人)	925(平成26年)	1,000

### 【数値目標②:転入者数】

令和3年度「住民基本台帳に基づく人口移動調査年報」の実績値は828人となり、目標値の1,000人には届かず、平成29年度以降徐々に減少し続けている。

本市の人口動態における社会増減については、本市に大学が無いことなどを理由として、18歳以降の年代が転出し、その後角田市に戻る割合が低いことが社会減における大きな理由となっている。

基本目標②「地域資源を活かした移住・定住の推進」においては、地域資源を活用・連携することで地域経済の好循環を生み出し、地域の魅力を高めることによる転入者数の増を図るものであるが、今後は、角田市第6次長期総合計画に基づき、将来を担う若い世代の郷土への愛着や誇りを育む教育を推進するとともに、地域資源を活用した創業支援や新たな就業環境を創出するため地域密着型の企業誘致を推進する。

## 基本目標③ 若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合(%)	15.6(平成25年度) (満足2.1+やや満足13.5)	30.0

### 【数値目標③:子育て支援の環境や支援に対して満足していると思う市民の割合】

平成30年度「角田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」の結果(13.8%)が最終値となり、令和3年度目標値である30.0%を大きく下回った。「KPIの達成状況」でも触れたとおり、地域の持続可能性を見据えれば、少子化問題については、優先すべき課題として取り組まなければならない施策である。

なお、角田市総合戦略の計画を2年間延長した際に、当該指標の調査時期についても精査すべきだったところ、実施見込みが明確でないままの状態、目標値として掲げていたことは反省すべき点である。

#### 基本目標④ 安全・安心で住み続けたい「まちづくり」

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
角田市に住み続けたいと思う市民の割合(%)	52.4(平成27年度)	70.0

#### 【数値目標④:角田市に住み続けたいと思う市民の割合】

令和2年度「市民アンケート調査」の結果が最終値となり、60.4%と策定時よりも上昇したものの令和3年度目標の70.0%には届かなかった。

アンケートの実施時期が令和2年6月であり、令和元年東日本台風の直後であったことや、新型コロナウイルス感染症による初めての緊急事態宣言の影響があったことも想定されるが、アンケート結果では、「公共交通システムの充実」「災害に強い防災体制の整備」「地域医療体制の充実」等の項目に対し、「重要度が高い施策だが、不満である」という回答が最も多かった。

角田市総合戦略では、「健康」「協働」「環境」「安心」の4つの項目を掲げ「安全・安心で住み続けたいまちづくり」を目指してきたが、今後も角田市第6次長期総合計画をはじめ、各個別施策計画に基づき、まちづくりの大きな課題となる「持続可能な地域医療体制の構築」「子育てしやすいまちを目指して」「公共交通システムの存続と利便性向上」等について、引き続き取り組むこととしている。

#### 4. 重要業績評価指標 (KPI) の達成状況

具体的な施策に係る KPI は全35 項目あるが、事業の完了等により令和3 年度の目標値を設定していない 7 項目については、今回の達成状況の集計には含めていない。

以下の表における達成状況については、次のとおり整理している。

なお、令和3年度が最終年度となるため、未達成の中でも達成度によって段階を付けて評価を行った。

達成	令和3年度の実績値が令和3年度の目標値と同値もしくはこれを上回ったもの
未達成 A	現時点において、令和3年度の目標値に達していないが、令和4年度中に目標値に達することが見込まれるもの
未達成 B	現時点において、令和3年度の目標値に達していないが、今後数年度程度で目標値に達することが見込まれるもの
未達成 C	上記に該当せず、現時点において、今後も令和3年度の目標値に達することが難しいもの

#### (1) 具体的な施策に係る KPI の達成状況【全体】

《参考》

達成状況	令和3年度	
	指標数	割合
達成	10	35.7%
未達成 A	1	3.6%
未達成 B	9	32.1%
未達成 C	8	28.6%
合計	28	100.0%

達成状況	令和2年度	
	指標数	割合
達成	6	21.4%
達成見込	7	25.0%
要努力	13	46.5%
算定不能	2	7.1%
合計	28	100.0%

- ・ 「達成」が計10項目となり、昨年度より増加したものの、約6割にあたる18項目が「未達成」となった。
- ・ 「達成」の増減内訳は、『かくだ牟生姫ひなまつり集客数』や『体験型観光メニュー利用者数』など5項目が今回新たに「達成」となったが、昨年度達成

していた『角田市役所における男性職員の育児休業取得率』が「未達成」となり1減となったため、4項目の増加となった。

- ・ 依然として、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、各種イベントへの参加者数を指標とするものについては、概ね「未達成」となった。

一方で、「達成」した指標のうち「体験型観光メニュー利用者数」については、オンラインによるイベントを開催するなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて変化した新しい生活様式や働き方（ニューノーマル）の活用により、目標を達成したものもあり、今後の施策展開についても、新型コロナウイルスといった不測の事態が発生しても対応できるような柔軟な施策展開が求められる。

- ・ 市総合戦略の策定当初から7年が経過している。この間には、国の施策も時代に合わせて変遷しており、市の各種施策についても、道の駅かくだのオープンによる各種連携事業の展開に代表されるように、大きな転換期を迎えた。また、本市を取り巻く環境が変化するスピードも加速化しており、少子高齢化・人口減少についても当初の推計を上回るスピードで減少が進行している。

このような現状を踏まえ、当初策定した計画における目標を達成することが重要ではあるものの、時代に即した計画・目標であることが重要であり、今後の各種計画の評価・進行管理においては、常に施策や目標の在り方を検討しつつ、進化し続ける計画であることが求められる。



## (2) 基本目標ごとの KPI の達成状況

達成状況	基本目標① 内発的産業の振興による 安定した雇用の創出		基本目標② 地域資源を活かした 移住・定住の推進	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	3	42.9%	4	50.0%
未達成 A	0	0.0%	1	12.5%
未達成 B	3	42.9%	3	37.5%
未達成 C	1	14.2%	0	0.0%
合計	7	100.0%	8	100.0%
達成状況	基本目標③ 若い世代が子どもを産み 育てやすい環境の整備		基本目標④ 安全・安心で住み続け たくなる「まちづくり」	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	1	16.7%	2	28.6%
未達成 A	0	0.0%	0	0.0%
未達成 B	1	16.7%	2	28.6%
未達成 C	4	66.6%	3	42.8%
合計	6	100.0%	7	100.0%

- 基本目標①については、『「こめ・まめ・うめ」を活用した特産品の開発数』など 3 項目が「達成」となったが、半数以上の 4 項目が「未達成」となった。

特に農業関連の指標がすべて「未達成」となっており、高齢化を主な要因とする担い手の減少が大きな課題となっている。法人化に取り組む農業者への支援や認定農業者へのサポートを充実させ、経営体の法人化と新規就農を一層推進することで、足腰の強い「農林業」の再生を目指す。

- 基本目標②については、半数の 4 項目が「達成」となった。「未達成」となった指標のうち『道の駅かくだの入込客数』や『かくだスポーツビレッジの年間利用者数』については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいものの、今後も感染症対策を十分に行いつつ、道の駅かくだとKスポの連携強化を図ることで、客数及び利用者数の回復を目指し、道の駅を核としたスポーツによるまちづくりを推進していく。

- ・ 基本目標③については、「達成」が 1 項目にとどまった。「未達成」の項目については、今後数年でも目標値に達することが難しい「未達成C」という評価が多数を占める結果となった。

その中でも、『保育所入所待機児童数』や『第2子以降の出生数』、『審議会などへの女性の登用率』のように子育てや男女共同参画等に関係する指標が未達成となっている。

本市の合計特殊出生率は、宮城県内でも低位（宮城県は全国平均より低位）である。地域の持続可能性を見据えれば、少子化問題については、優先すべき課題であり、令和 4 年度に庁内プロジェクトチームを立ち上げ、子育て家庭のニーズを反映した新たな事業を検討することとしている。

- ・ 基本目標④については、令和元年東日本台風による被災以降、阿武隈急行線利用者数の減少や幹線市道の改良の遅れが見られることから、約7割が「未達成」となった。

「防災対策の市民満足度」は、31.8%（令和2年度「市民アンケート調査」結果が最終値）という結果であり、令和3年度目標の 70.0%を大幅に下回ったことなどから、令和3年4月に策定した角田市国土強靱化地域計画に基づき、必要な事前防災及び減災等に資する施策を総合的かつ計画的に実施することにより、安全・安心で住み続けたいまちづくりを推進する。